



ひとひと 女・男 ひろば

〈第13回〉

それぞれの努力が 認められる年金制度へ

昨年12月に厚生労働省の「女性と年金検討会」で、年金制度改革の報告書がまとめられました。この中で、厚生年金の加入水準を現行の年収130万円から65万円に引き下げることや、育児中の保険料免除、離婚をした場合の年金分割、遺族年金制度の見直しなどの検討課題があげられています。

基本的な考え方として、「女性自身の貢献が実る年金制度を」「夫一人で築く年金から、夫婦それぞれで築く年金へ」というように、主たる生計維持者（夫）の保険料で夫婦の老後生活を保障する従来の制度から、男女が家族としての責任を果たしながら、さまざまな形で働いたことが評価される、新しい制度への移行が目標となっています。そしてこれは、私たちが目指している男女共同参画社会の基本理念に沿った提言といえます。

今回の報告をもとに、平成16年度の年金制度改革に向けて個々の課題が検討されています。女性の老後は平均して男性より長いということもあり、安心できる年金制度は男性以上に必要となっています。

新津市の人口

	平成14年2月28日現在(前月比)	前年同月比
男	32,511 (+ 5)	(- 81)
女	35,078 (± 0)	(+ 48)
計	67,589 (+ 5)	(- 33)
世帯数	21,091 (+21)	(+ 235)
2月中の動き		
出生	41	死亡 43
転入	103	転出 96
結婚	19	離婚 9

ー スに、バイオマスエネルギーなどの研究を進めるとともに、とりわけ日常生活での化学物質汚染の防止とその対策を研究室の大きなテーマととらえ、バイオサーチパークに設立される研究所との連携研究を大いに発展させたいと考えています。

市民へのメッセージをどうぞ。市民の皆さんが、いつでもキャンパスを訪れて、私達に気兼ねせず質問していただき、また談笑しあって、お互いにヒントや知識を得ることで、新しい研究や教育が進展することを期待しています。

将来、この新津キャンパスを他に類を見ないバイオ研究の集積地として光り輝かせ、また集まった人材による研究成果を生かした、バイオ関連製品の一大生産拠点にしたいですね。

新潟薬科大学応用生命科学部 教授陣紹介



環境安全科学研究室教授

及川紀久雄さん

里と本間にいいところですね。新津市とは、新津ホタルの会が発足当時から長い付き合いで、会員をはじめ市民の皆さんの自然環境に対する熱心な取り組みに触れ、大変親しみを感じています。

これまでどのような研究をされてきましたか？

千葉大学大学院薬学研究科を卒業後、当時大気汚染や水質汚濁の公害が激しかったことから、環境汚染の研究をしようとして、川崎市にある日本環境衛生センターの公害部に勤務し、大気中粉じんの重金属の分析方法の開

発や光化学スモッグの研究を始めました。

その後、新潟薬科大学に赴任し、酸性雨、化学物質汚染、食品の安全などの研究を行い、最近では竹炭や木炭の科学を中心に、シックハウス症候群や化学物質過敏症に対応した木炭ボードを開発しています。

応用生命科学部での抱負をお聞かせください。

これからの大学における研究は、「応用」さらには「ビジネス化」の視点を常に持ちながら進めていくことが重要であると考えています。現在研究している木炭関連製品については、長年にとる応用研究の結果、ベンチャー企業の設立まで至りました。今後は資源循環システムをべ

緑の風薫り 笑顔ゆきかう ふれあい文化都市

にいつ 新津

新津市第3次総合開発計画：平成7～16年度

水と緑のまち 快適で安らぎが漂うまち
明るく元気なまち 健やかで優しさが響きあうまち

人が輝き活力のみなぎるまち にぎわいと交流のまち
豊かな人間味と文化の薫るまち 個性豊かな文化のまち